



TITLE:

天文と旅行

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 天文と旅行. 天界 1920, 1(1): 9-10

ISSUE DATE:

1920-10-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159512>

RIGHT:

星座を順々に巡回する。其の巡回旅行記が他の書に類は無く、趣味と價值ある物である。博士は變光星研究の大家であるだけに特に變光星の記事は親切丁寧を極めて居る。(一八)と(一九)は水路部技師の潮汐學に造詣の深い小倉氏の著作で其の眞値は論ずる迄も無く、兩書とも中學校で地理科を教へる先生方の一讀を希望する。(二〇)は小野船長が多年航海中天に輝く各星座の美麗と莊嚴に詩想を催はし凝つて一篇の長詩となつた物、曲譜も附加され一讀否な一吟の價值は十分ある。併し或は絶版かも知れない。(二一)はハリ彗星の出現の際新聞記者たる高野氏の編する所で、早や絶版。

## 所 感

伯爵 冷泉 爲 系

見れど猶わかぬみそらのことわりを

さどせる文のいさをたかしも

## 天文と旅行

岡山商業學校教諭 水野 千里

西曆一四九二年コロンブスが西航の途磁石が眞正の北を指さぬので夜分星の位置を觀測して船の方向を定めたことは有名な話で大洋を航海する人は星によつて方位を定め安全に目的の地に達するのである又埃及、支那の如き大平野のある地方は古より天文の學問が發達して居たことは普く知られて居るが吾々が旅行して未知の地に足を踏み込んで方角がわからなくなつておまけに夜分になると困ること一方ならぬのであるが少しでも天文の知識があつて一、二等星位の見分けがつくと方角を定めることは實に容易の事である尙惑星の位置を知つて居ると一層都合のよい事が多いのである又陸軍々人にも若干の天文的知識のあるときは夜分斥候などにいつてさんでもない方にとびこんだりおまけに敵陣に迷ひこむといふやうなことはないのである。

余は去大正四年十二月下旬より翌五年一月上旬にかけて名古屋、東京、日光、仙臺、水澤、新潟及び金澤方面に旅行したときに二三の星によつて迷ふことなしに其の地の見物をする事が出来しみづと天文の効果が現はれたのを喜んだのである。

十二月二十三日午後八時頃に名古屋に著いたその前岐阜邊から車窓より蒼空を眺め燦然たる星の美しさを賞して居たのであるが前途を急ぐ身はその夜名古屋の見物をなす必要に迫られて居たので下車すると早速市中の重なるところと熱田神宮及び築港迄瞥見したその間電車の便をかりたことは無論であるが其の所で方角を知つたのは天に輝きし星一年中最も壯觀、美觀を呈せるオリオン、大犬、小犬、牡牛、馭者、雙子及び獅子座などにある一、二等星によつたのである無論一般に知られて居る北斗七星、北極星はあるがくるくまはりをして大熊、小熊座を求むるよりは天を仰ぎ前記の星座にある二つ三つの星

を一見して方位を知る方が早い。尙ほ銀河の方向によつても知ることが出来る。

それから東京に一週間計り滞在して夜間に歩いて東京の市中は道路が阿彌陀わりで東西南北に通じて居るところが少く市人は左右によりて區別して居るので他より市内に入りしものにはほとんど分らない東か西かと尋ねると左とか右とか答へられるので一方ならぬ迷惑を感じるが余は一葉の地圖と天に輝ける星とがあるので案内者なしに東京の市中を夜分活歩したのは全く天文學の賜物であつた。

仙臺、金澤等に於ても同様地圖と星とで無事旅行をして目的の見物をなすことを得たのは全く天文の一端を窺つてゐたからであるほんの素人研究でもこれだけ實用に供せられるのである誰しも旅行して日暮れ途遠のときがあるがしかし天文に興味を有するものは天に輝ける星を見ては美觀に打たれ晝の疲れを忘れ又途の遠きをも打ち忘れしらす／＼の中に目的地に達するのである。